

授 業 科 目 名	初等教科研究・音楽理論Ⅱ						
サブタイトル	子どもの声域にあった楽譜を書く・保育者としてピアノを弾きながら歌う						
授 業 区 分	専門教育科目	単 位 数	1 単 位	開講時期	秋学期	出席要件	4/5
担 当 教 員	渡辺明子					授業形態	演習
質問受付の方法	授業中、授業終了後、コミュニケーションタイム、いずれも可。						
到達目標と学習の成果	到達目標 (1) 目的 子どもの声域にあった楽譜を書く力を身につけ、また保育者に必要な歌唱力および表現力を身につけることを目的とする。 (2) 授業構成と到達目標 1. 音程がわかり、指定された音程になるよう音符が書ける。音階および調号がわかり、指定された調号が書ける。移調ができる。コードネームを音符で書きあらわせる。 2. ピアノを弾きながら歌うことができる。						
	学習成果 1. 移調の仕組みを理解し、子どもの声域にあった楽譜を書く力が身につけ、子どもに無理のない音楽活動に活かすことができる。 2. ピアノを弾きながら歌うために必要な技術が身につけ、今後の実習で活用できる。						
ディプロマポリシーとの関連	1. 音楽を通じた豊かな表現方法で、子どもとコミュニケーションするとともに、周りと協働しながら様々な問題に対して主体的に問題解決する力を身につける。 2. 本科目はカリキュラムマップ1年次「保育の基礎を学ぶ」に位置づけられており、保育者に求められる音楽表現技能の基礎を学ぶ。						
授業の方法	1. 移調ができるようになるためには、音程および調号の理解が不可欠であるため、講義を行った後、練習問題をグループワーク形式で実施する。学生によって音楽経験に差があるため、初学者は経験者の力を借りて練習問題に取り組むことを勧める。 2. ピアノ弾き歌いは練習時から歌とピアノを同時に練習することが必要のため、授業の中で実際に弾きながら歌う練習を行う。その際、保育者に求められる「音楽的援助」について考えていく。 3. 実施した小テストは、採点后、翌授業にて返却する。返却された小テストは復習に活用すること。						
テキスト教材参考図書	教科書 音楽の理論 保育者・教師をめざすあなたへ 小畑秀樹・渡辺明子・春日保人 共同音楽出版 2015年 教科書 子どもと歌おう！《新版》幼児とともに 音楽Ⅰ研究室 聖徳大学出版部 2011年 参考書 幼稚園教育要領 文部科学省 フレーベル館 2008年 参考書 保育所保育指針 厚生労働省 フレーベル館 2008年 参考書 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2015年						
評価の要点	音程、音階と調号、移調を理解している。（筆記試験） 保育者として適切な発声法、表情、リズムや音高、明瞭な言葉でピアノを弾きながら歌える。（歌唱発表） 筆記試験と歌唱発表、共に6割以上の成績をもって合格とする。						
評価方法と採点基準	発声法、姿勢、リズムや音高、明瞭な言葉をポイントとしたピアノ弾き歌い発表（50%） 音程、音階と調号、移調をポイントとした筆記試験（40%） 音程、調号の小テスト（10%）						
履修上の注意事項や学習の助言など	1. ノートは必ず音楽用五線ノートを使用すること。 2. 小テストを欠席した場合は、自ら申し出て、後日受験すること。						

授業回数別教育内容		身につく資質・能力	予習・復習等
1回	ガイダンス/音程の基礎 本授業の目的を理解し、保育現場における移調の必要性を理解できる。音程の基礎を思い出せる。（グループワーク）	目的の理解 移調の必要性 音程の基礎	復習が大切である。各人の音楽経験に応じて必要復習時間は異なる。音程の基礎を再確認する。30分
2回	派生音を含む音程/歌唱時の音の跳躍 音程の基礎を踏まえ、変化記号がついた音を含む音程名がどのように変化するのかを理解できる。（グループワーク） 音の跳躍時の留意点を理解し歌唱できる。	変化記号を含む音程 歌唱時の音の跳躍	変化記号を含む音程を確認する。30分
3回	指定された音程になるように音符を書く/歌と遊び 指定された音程になる音符が書けるようになる。（グループワーク） 歌と遊びの関連について考えながら歌唱できる。	指定された音程を書く 歌と遊び	指定された音程の書き方を確認する。60分
4回	音程に関する小テスト/前奏および間奏に留意する 前奏の無い楽曲の留意点を理解し歌唱できる。 前奏および間奏演奏時の留意点を理解し歌唱できる。	前奏と間奏	音程全般を確認する。30分
5回	音階の役割と仕組み/弾き歌いについて さまざまな音楽における音階の役割を知り、音階の仕組みを理解できる。 弾き歌い課題曲の説明を受け、留意点を理解できる。	音階の役割と仕組み 弾き歌い時の留意点	音階の仕組みを確認する。30分
6回	シャープ系の長音階と調号/メロディーを弾く シャープ系の長音階および調号を理解し、書ける。（グループワーク）弾き歌いを行う際のメロディーの弾き方を理解し、歌唱できる。	シャープ系長音階と調号 メロディーの弾き方	シャープ系調号を確認する。30分
7回	フラット系の長音階と調号/メロディーの弾きわけ1 フラット系の長音階および調号を理解し、書ける。（グループワーク）弾き歌いを行う際のメロディーの弾きわけ方を理解し、歌唱できる。	シャープ系長音階と調号 メロディーの弾きわけ	フラット系調号を確認する。60分
8回	調号に関する小テスト/短音階と調号/メロディーの弾きわけ2 短音階と調号を理解し、書ける。（グループワーク）弾き歌いを行う際のメロディーの弾きわけ方を更に理解し、歌唱できる。	短音階と調号 メロディーの弾きわけ	短調の調号を確認する。30分
9回	移調方法の概要と調号の移調/弾き歌いと左手 移調方法の概要を知り、調号の移調方法を理解できる。（グループワーク） 左手のみによる弾き歌いができる。	移調の概要 調号の移調 弾き歌いと左手	調号の移調方法を確認する。30分
10回	音符（幹音）の移調/両手による弾き歌い/季節と歌 音符（幹音）の移調方法を理解できる。（グループワーク） 両手による弾き歌いができる。 季節と歌の関連について考え歌唱できる。	音符（幹音）の移調 両手による弾き歌い 季節と歌	音符（幹音）の移調方法を確認する。30分
11回	音符（派生音）の移調/弾き歌い時の姿勢/行事と歌 音符（派生音）の移調方法を理解できる。（グループワーク） 弾き歌いの際の正しい姿勢について理解し、弾き歌いができる。 行事と歌の関連について考え歌唱できる。	音符（派生音）の移調 弾き歌いの際の姿勢 行事と歌	音符（派生音）の移調方法を確認する。30分
12回	移調のまとめ/弾き歌いのまとめ 子どもの声域を考えて移調することの必要性を理解できる。（グループワーク） ここまで修得した保育者としておこなう弾き歌いに必要な表現技術を振り返り表現できる。	移調（まとめ） 弾き歌いに必要な表現技術	移調方法全般を確認する。60分
13回	ピアノ弾き歌い発表 ピアノ弾き歌いを行うことにより、また他学生の発表を視聴することにより、各自の課題を明確にできる。	弾き歌いにおける自己課題の明確化	自己課題を確認する。30分
14回	「保育者としてピアノを弾きながら歌う」のまとめ 歌詞（発音）に応じた適切なメロディー表現の重要性を再認識し表現に生かせる。子どもの歌を最適に援助することができるピアノ弾き歌いの技術を再認識し表現に生かせる。	保育者に必要な弾き歌い技術	保育者に必要な弾き歌い技術を振り返る。30分
15回	「子どもの声域にあった楽譜を書く」のまとめ 移調に必要な知識を振り返り、学んだ内容を定着させることができる。	子どもの声域にあった楽譜を書く	移調に必要な知識を振り返る。90分
試験	筆記試験 音程、音階と調号、移調をポイントとした筆記試験を行う。		

授 業 科 目 名	保育内容指導法Ⅱ						
サブタイトル	子どもの心とからだの健康づくり（Ⅱ）						
授 業 区 分	専門教育科目	単 位 数	1 単位	開講時期	秋学期	出席要件	2/3以上
担 当 教 員	佐野裕子					授業形態	演習
質問受付の方法	オフィスアワーとして研究室に掲示						
到達目標と学習の成果	到達目標 (1) 目的 子どもの心身の健康に関する基礎理論を理解し、健康の保持・増進のための実践力を養う。 (2) 授業構成と到達目標 ①心身共に健康な子どもを育成するための実践的知識を習得することができる。 ②心身ともに健康な子どもを育てる保育者の支援のあり方について考究できる。 ③子どもや家庭、地域の健康の保持増進のための実践的知識や実践的技能を習得することができる。						
	学習成果 (1) 子どもの健全育成に寄与するための実践的知識を理解し、説明することができる。 (2) 健康に関する現代的課題を理解し、園や家庭地域の健康を支える保育者の支援のあり方について考究することができる。 (3) 子どもや家庭、地域の健康の保持増進のための模擬保育を通して実践的知識や実践的技能を習得することができる。						
ディプロマポリシーとの関連	(1) 健康の保持増進について実践的に考究し、周りと協働しながら、子どもや家庭、地域の健康課題を多面的に捉え、主体的に問題解決ができる。 (2) 本科目はカリキュラムマップの1年次の保育内容総論・保育原理等の保育の基礎の学びを基盤に、「幼児教育を探究する」の2年次の秋学期に位置付いている。						
授 業 の 方 法	(1) 健康の保持増進に関する理論を、教科書や幼稚園教育要領、保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、資料、スライド等を通して学ぶ。 (2) グループワーク・グループディスカッションで、健康を育むための模擬保育を通して実践的知識や実践的技能を習得する。						
テキストと参考文献	参考書 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2015						
評 価 の 要 点	(1) 健康に関する現代的課題を理解し、園や家庭地域の健康を支える保育者の支援のあり方について説明することができる。 (2) 子どもや家庭、地域の健康の保持増進のための模擬保育を通して実践的知識や実践的技能を身に付けることができる。						
評 価 方 法 と 採 点 基 準	評価の要点に基づいて実施する。 期末試験（60％）グループワーク・レポート（40％）						
履修上の注意事項や学習の助言など	<ul style="list-style-type: none"> ・授業については主体的に参加すること ・普段から、新聞やテレビ等のニュースで子どもの健康に関する話題に関心をもつこと。 						

授業回数別教育内容		身につく資質・能力	予習・復習等
1回	ガイダンス 「健康」の意義 ①授業の目的、内容、進め方を理解する ②健康の意義や歴史について、海外の研究も含めて理解を深める	健康生活の意義 諸外国の健康観	復習30分 健康生活の意義
2回	幼保連携型認定こども園教育・保育要領「健康」と保育環境 ①領域「健康」のねらい・内容について理解する ②乳幼児の健康を支える保育者の役割について考究する	幼保連携型認定こども園教育・保育要領「健康」の理解	復習30分 幼保園の保育者の役割
3回	多様な保育と子どもの生活実態 多様な保育を受ける子どもの生活実態を最新の調査から読み取り、子どもの健康課題について考究する	子どもの生活実態 健康課題の理解	復習30分 生活実態の熟考
4回	子どもの健康生活と「快食・快便・快動・快眠」 子どもの「快食・快便・快動・快眠」生活を健康科学の視点から理解する	健康的な生活の理解	復習40分 健康生活の重要性
5回	子どもの健康生活と「食育」 保育現場における「食育」の実際について、事例を通して実践的に習得する。	食育実践の理解	復習30分 食育の熟考
6回	子どもの健康生活と体力・運動能力 ①子どもの体力・運動能力と運動の2極化について考究する ②幼児期運動指針について理解する	幼児期運動指針の理解	復習60分 幼児期運動指針
7回	子どもの健康生活と園行事（1） 散歩や遠足、プール等の行事を健康教育の視点から理解する	健康生活と園行事の理解	復習30分 健康教育と園行事
8回	子どもの健康生活と園行事（2） ①社会的行事の一つである運動会を健康教育の視点から理解する ②運動会プログラムを実践を通して、健康教育について考究する	健康生活と運動会行事の理解	復習60分 課題作成
9回	子どもの健康生活と安全環境・安全教育 ①園における安全な保育環境構成について理解する ②園における安全教育について習得する	安全環境と安全教育	復習40分 安全な保育環境構成
10回	近年の子どもが抱える健康問題とその対策 子どもが抱える健康上の問題について、グループ討議を通して検討し、発表する	発表力・実践的技能	予習60分 課題作成
11回	子どもの健康の保持・増進のための保育プログラム（模擬保育1） グループワークで、健康支援のための保育計画を立案し、模擬保育をとおして、実践的指導力や実践的技能を習得する（Aグループ）	発表力・実践的指導力 ・実践的技能	予習60分 課題作成
12回	子どもの健康の保持・増進のための保育プログラム（模擬保育2） グループワークで、健康支援のための保育計画を立案し、模擬保育をとおして、実践的指導力や実践的技能を習得する（Bグループ）	発表力・実践的指導力 ・実践的技能	復習60分 課題作成
13回	子どもの健康の保持・増進のための保育プログラム（模擬保育3） グループワークで、健康支援のための保育計画を立案し、模擬保育をとおして、実践的指導力や実践的技能を習得する（Cグループ）	発表力・実践的指導力 ・実践的技能	予習60分 課題作成
14回	特別な配慮を要する子どもの「健康」 特別な配慮を要する子どもの「健康」の理解と支援について事例を通して考究し、実践的知識や実践的技能を習得する。	特別な配慮を要する子どもの健康の理解	復習60分 特別な配慮を要する子どもの健康
15回	子どもや家庭、地域の健康生活と保育者の役割 授業全体を振り返り、子どもや家庭、地域の健康と保育者の役割について理解を深める。	健康生活と保育者の役割理解	復習90分 授業の振り返り
試験	定期試験 評価の要点に基づいて実施する。		

授 業 科 目 名	相談援助						
サブタイトル	ソーシャルワークの実践を学ぶ ？						
授 業 区 分	専門教育科目	単 位 数	1 単位	開講時期	春秋期	出席要件	2 / 3
担 当 教 員	真壁坤子					授業形態	演習
質問受付の方法	随時受け付けます						
到達目標と学習の成果	到達目標						
	<p>① 自己覚知の重要性を理解することによって、自分自身の持つ価値観への気づきを深めることができる。</p> <p>② 自己理解を深めることが、専門職としてよりよい援助関係を作り上げることに関連していることを理解できる。</p> <p>③ 事例研究を通して、子どもと家庭の抱えるさまざまな問題を理解し、援助の重要性についての理解を深めることができる。</p> <p>④ 演習を重ねながら、話し合う、まとめる、発表する、という力を身につけることができる。</p>						
到達目標と学習の成果	学習成果						
	<p>① 相談援助専門職としての基本的態度を身につけ、実践することができる。</p> <p>② 相談援助専門職として、専門的な技法を活用することができる。</p>						
ディプロマポリシーとの関連	相談援助専門職としての基本的な知識と技術を身につけることにより、それを論理的、実際に考察し、家族や子供の問題を多面的にとらえて問題解決ができる。また、社会、家庭、子どもの抱える問題に関しての深い理解と相談援助の専門的姿勢を身に付けた社会人となり、社会に大いに貢献できる。カリキュラムマップにおいて、本科目は幼稚園教員・保育士養成コースの「幼児教育を探究する」に位置付けられています。						
授業の方法	<p>① さまざまな演習を通して自己理解を深める。</p> <p>② 相談援助の具体的内容を理解し、人間関係を学ぶ。</p> <p>③ グループに分かれて事例研究に取り組み、話し合いをを深めてその内容をまとめ、発表する。</p>						
テキスト教材参考図書	教科書 事例中心で学ぶ相談援助演習 中川千恵美ほか (株)みらい 2010年						
評価の要点	<p>① 一人ひとりの倫理観と人間性が相談援助関係にどのような影響を及ぼすのかについて説明できる。</p> <p>② 相談援助・支援を必要とする人がどのような人たちであり、専門家としてその人たちに対してどのような援助支援が必要なのかについて、その方法と技術をどう学び理解したかを評価する。</p>						
評価方法と採点基準	評価の要点に基づいて実施する期末試験（70％）、レポート・発表（30％）で評価する						
履修上の注意事項や学習上の助言など	レポート提出については期限を守ること						

授業回数別教育内容		身につく資質・能力	予習・復習等
1回	(ガイダンス) 授業の目的、内容、進め方を理解する	相談援助とは何かを学び、授業の進め方について理解する。	予習 60分 テキストを読みながら授業の目的を理解する
2回	(自己覚知・自己理解) 自己の物の見方感じ方について、理解を深める	自分自身を知る	予習 15分 テキストを読む 復習 30分 授業内容を理解する 1
3回	(自己覚知) 自分を知ることがどうして大切なことなのかをまとめる	自己理解を通して人間関係の基本を学ぶ	予習 15分 テキストを読む 復習 30分 疑問点問題点を検討する
4回	(相談援助についての理解) 相談援助について学ぶ	相談援助とはどのような知識と技術が必要なのかを学ぶ	予習 15分 テキストを読む 復習 30分 授業内容をまとめる
5回	(相談援助過程Ⅰ) コミュニケーションコについて学ぶ	相談援助の具体的技術の修得	予習 15分 テキストを読む 復習 30分 授業内容を理解する
6回	(相談援助過程Ⅱ) 基本的な面接技術を学ぶ	相談援助の具体的技術の修得	予習 15分 テキストを読む 復習 30分 授業内容を理解する
7回	(相談援助プロセスⅠ) 相談援助専門職に必要な技術	相談援助の具体的技術の修得	予習 15分 テキストを読む 復習 30分 授業内容を理解する
8回	(相談援助プロセスⅡ) 相談援助の展開の方法について学ぶ	相談援助の具体的技術の修得	予習 15分 テキストを読む 復習 30分 疑問点問題点を理解する
9回	(相談援助演習Ⅰ) 相談援助の実際を学ぶ	相談援助の具体的技術の修得	復習 60分 授業内容を理解しまとめる
10回	(相談援助演習Ⅱ) 相談援助に必要な人間関係を学ぶ	家族理解を深める	復習 60分 授業内容を理解しまとめる
11回	(事例研究Ⅰ) グループに分かれて検討事例のテーマを選ぶ	家族の抱える個々の問題を理解する	予習 15分 テキストを読む 復習 60分 グループに分かれて課題を検討する
12回	(事例研究Ⅱ) 与えられた課題を基にしてグループで事例検討を行う	課題にそってグループで話し合いをする。自分の意見を述べ相手の意見を聞くことで、グループの見解としてまとめる能力が身に着く	予習 30分 課題の検討をする 復習 60分 課題検討について内容を深める
13回	(事例研究Ⅲ) グループごとに検討した事例をまとめる	示された課題に沿って内容をまとめ、グループ発表の方法を検討することにより、協働して目的を達成するということを学ぶ	復習 60分 課題についての内容をまとめる
14回	(事例研究Ⅳ) グループ発表	グループで検討しまとめたことを、どうしたら相手に的確に伝えられるかを体験する	復習 90分 グループでまとめた内容を発表する
15回	相談援助のまとめ	相談援助専門職になるために、これからどうすべきかを考察する	復習 30分 授業を振り返り学んだことをレポートにまとめて提出
試験	評価の要点に基づいて実施する		

授 業 科 目 名	保育課程論						
サブタイトル	保育所、幼稚園の保育の計画、実践、評価の基本について学ぶ						
授 業 区 分	専門教育科目	単 位 数	2 単 位	開講時期	春秋期	出席要件	2 / 3 以上
担 当 教 員	岡田耕一					授業形態	講義
質問受付の方法	①6304研究室のコミュニケーションタイムを参照。						
到達目標と学習の成果	到達目標 (1) 目的 保育所、幼稚園の保育の計画、実践、評価の基本を学び、実習に活かす。 (2) 授業構成と到達目標 上記の目的を達成するために、以下の3つの到達目標がある。 1. 保育所や幼稚園の保育の計画の作成方法について説明できる。 2. 保育の計画の作成と展開（1日実習指導案、部分実習指導案の）について説明できる。 3. 保育所や幼稚園における保育の過程（計画→実践→評価→改善）について説明できる。						
	学習成果 1. 実習でいただく様々な指導案を理解し、実習に役立てることができる。 2. 学習した内容を、1日実習指導案や部分実習指導案の作成に活かすことができる。 3. 保育の過程について学習した内容を基に、PDC Aを踏まえた効果的な実習を行うことができる。						
ディプロマポリシーとの関連	1. 本科目は、ディプロマポリシー「(2) 保育実践に必要な論理的思考力、判断力、表現力、他者と連携・協働する力等、理論と実践力を育成します。」に密接に関連する。 2. 本科目は、カリキュラムマップ「子どもを理解する」に位置付けられている。						
授 業 の 方 法	1. 学生の皆さんとの対話を大切に授業を進めていく。授業中に幾つかの課題（質問）を与えるので、自分の意見や考えを積極的に発表してほしい。 2. 学生の皆さんの理解をさらに深めるために、授業内で簡単な小テスト、レポートを実施する。 3. 復習、予習については、授業の中で説明する。						
テキストと参考図書	教科書 「保育課程論」 加藤敏子、岡田耕一編著 萌文書林 2013年 参考書 幼稚園教育要領 文部科学省 フレーベル館 2017年 参考書 保育所保育指針 厚生労働省 フレーベル館 2017年 参考書 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 フレーベル館 2017年						
評 価 の 要 点	1. 保育課程と保育所保育指針との関係について説明できるか。 2. 保育課程と指導計画との関係について説明できるか。 3. 発達と保育について説明することができるか。 4. 1日実習指導案や部分実習指導案を作成できるか。						
評 価 方 法 と 採 点 基 準	・上記「評価の要点」をレポート、小テストで評価する。 ・受講態度に問題がある場合は、保育者を目指す学生としての倫理観が十分でないとなし、ケースに応じて減点する。 評価の割合：小テスト（20%）、レポート（80%） 合計100%						
履修上の注意事項や学習の助言など	1. テキストを基に授業を進めるので、テキストを必ず持参すること。 2. 単なる知識として学習するのではなく、実習に役立てるという意欲を持って授業に臨んでほしい。						

授業回数別教育内容		身につく資質・能力	予習・復習等
1回	●ガイダンス ●授業（保育所保育の基本原則） (1) 授業スケジュール、学習評価の方法について理解する。 (2) 保育所保育の目的、目標、内容について復習する。	養護と教育の方法	復習20分 養護と教育の確認 予習20分 テキストを読む
2回	保育所の1日 (1) DVDを視聴し、松戸市の保育所の1日を理解する。 (2) デイリープログラムについて学ぶ。	保育者の援助	復習20分 保育所の1日の確認 予習20分 テキストを読む
3回	保育課程 (1) 保育課程の必要性について学ぶ。 (2) 保育課程と保育所保育指針との関係について学ぶ。	保育課程の理解 保育指針の理解	復習20分 保育課程の必要性 予習20分 テキストを読む
4回	発達と保育① (1) 0歳～2歳までの子どもの発達について学ぶ。 (2) 発達の過程に相応しい保育方法について学ぶ。	乳児の発達の理解 発達に相応しい保育	復習20分 乳児の発達の特徴 復習20分 テキストを読む
5回	発達と保育② (1) 3歳～6歳までの子どもの発達について学ぶ。 (2) 発達の過程に相応しい保育方法について学ぶ。	幼児の発達の理解 発達に相応しい保育	復習20分 幼児の発達の特徴 予習20分 テキストを読む
6回	様々な指導計画 (1) 年間計画、月案、週案、日案の関係と各計画の仕組みについて学ぶ。 (2) 復習。保育課程、指導計画を学んだ感想、疑問点を発表し合う。	保育の計画の種類と関連性	復習20分 各指導計画の重要性 予習20分 テキストを読む
7回	集団遊びの指導 (1) 集団遊びの必要性について学ぶ。 (2) フルーツバスケットの指導について具体的に学ぶ。	遊びの指導方法	復習20分 集団遊びの指導 予習20分 テキストを読む
8回	部分実習指導案の作成① (1) フルーツバスケットの指導案を作成する。 第6回の内容を踏まえて、指導案を作成する。	指導案作成能力 文書表現力	復習20分 指導案の見直し 予習20分 テキストを読む
9回	子ども理解の方法 (1) 研究者の子ども理解、保育者の子ども理解について確認する。 (2) 子ども理解の方法原理について事例に基づいて学ぶ。	子ども理解の方法	復習20分 配布資料の再読 予習20分 テキストを読む
10回	部分実習指導案の作成② (1) 3歳児の部分実習指導案を作成する。 第8回の経験を活かして、「公園での遊び」についての指導案を作成する。	指導案作成能力 文書表現力	復習20分 指導案の見直し 予習20分 テキストを読む
11回	1日実習指導案の作成 (1) 3歳児の1日実習指導案を作成する。 第10回の内容を基に、1日実習指導案を作成する。	指導案作成能力。 文書表現力。	復習20分 指導案の見直し 予習20分 テキストを読む
12回	異年齢児混合保育の指導案の作成 (1) 異年齢児混合保育の内容と指導方法について学ぶ。 (2) 異年齢児混合保育の1日実習指導案を作成する。	異年齢児混合保育の保育方法。指導案作成能力。	復習20分 異年齢児混合保育 予習20分 テキストを読む
13回	様々な保育施設の理解 (1) 保育所、幼稚園、認定こども園それぞれの保育の特性について学ぶ。 (2) その他の保育施設の特性について学ぶ。	様々な保育施設の理解	復習20分 保育施設の特性 予習20分 テキストを読む
14回	保育の記録と自己評価 (1) 保育の記録の重要性を理解し、記録の取り方について学ぶ。 (2) 自己評価の重要性と自己評価の方法について学ぶ。	保育実践に有用な記録を書く。	復習20分 実習記録の読み直し 予習20分 テキストを読む
15回	学習のまとめ これまでの講義の内容の復習・質疑応答。 試験内容の説明をする。	保育課程、指導計画についての理解。	復習（3時間） レポートの作成
試験	15回終了後、レポートを提出する。 「評価の要点」「評価方法と採点基準」に基づき、レポート、小テストを実施。		

授 業 科 目 名	初等教科研究・図画工作Ⅱ						
サブタイトル	つくること、みることの楽しさを学ぶ						
授 業 区 分	専門教育科目	単 位 数	1 単位	開講時期	秋学期	出席要件	4 / 5
担 当 教 員	西園政史／渡邊誠／木村早苗					授業形態	演習
質問受付の方法	オフィスアワーとして研究室に掲示						
到達目標と学習の成果	到達目標 到達目標 (1) 目的 製作、教材開発を通して表したい事柄を表現する力を身につけ、図画工作における基本的な知識・技能を修得することを目的とする。 (2) 授業構成と到達目標 ①学年に応じた児童の表現・鑑賞の発達について学修し、造形活動に関する実践力を身につけ指導力を身につけることができる。 ②素材や道具について適切な使用方法を理解し、その方法を発展的に活用する力を身につけることができる。 ③鑑賞の意義について理解し、広い見識で美術、造形に興味を持つことができる。						
	学習成果 (1) 学習指導要領解説「図画工作」編の図画工作科の第1学年・第2学年・第3学年の目標と内容等を理解し、実践することができる。 (2) 素材や道具について理解し、小学校低学年の児童の興味関心を喚起できる教材の開発を試みることができる。 (3) 鑑賞を通して、実践的に子どもたちの想像力・創造力を伸ばす方法を身につけることができる。						
ディプロマポリシーとの関連	(1) 児童学に興味・関心を持ち、子どもたちに関する専門的知識と理論および技能を修得している。 (2) 初等科研究図画工作Ⅱは、カリキュラムマップの「保育を探究する」に位置づいている。						
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 個人、グループでの製作、教材開発を通し、目標に応じた造形活動を行う 各課題の最後に、展示と鑑賞会を行う 15回の全授業の内容をドキュメンテーションブック（各課題の内容を写真・図・言葉を用いまとめ考察したもの）にまとめる 						
テキストと参考図書	参考書 小学校学習指導要領解説・図画工作編 日本文教出版 平成20年8月						
評 価 の 要 点	以下の点などで総合的に評価をする ①作品と製作過程の記録を考察しまとめたドキュメンテーションブックの内容で評価する ②発表の内容 ③各課題の目標到達度						
評 価 方 法 と 採 点 基 準	①予習で得た内容と授業で取り組んだ内容、理解したことを考察しまとめたドキュメンテーションブック (90%) ②作品発表 (10%)						
履修上の注意事項や学習の助言など	<ul style="list-style-type: none"> 美術館に行き鑑賞活動を行う 指定された用具を忘れないようにする 課題を探究し実践的に解決する能力を養うのが授業のねらいのため、積極的に楽しんでやってみましょう 						

授業回数別教育内容		身につく資質・能力	予習・復習等
1回	ガイダンス ・学修を通して何が身につくのか理解し、自分の目標を設定する ・授業内容と学修方法、提出物（ドキュメンテーションブック）と評価について把握する	・図画工作科の概要についての理解 ・15回の授業を見通す力	予習：シラバスで概観を得る 復習：ドキュメンテーションブック制作のための準備
2回	色の基本 ・チョーク絵の具づくりを通して、色の基本について学ぶ	・色彩、絵の具についての理解	予習：ドキュメンテーションブックの準備 復習：授業で学んだ内容をドキュメンテーションブックにまとめる
3回	造形遊び ・身近なものを使って「造形遊び」をする	・「造形遊び」の学びについての理解	予習：小学校の「造形遊び」について調べ、実践例を集める 復習：本題材を振り返り、授業で学んだ内容をドキュメンテーションブックにまとめる
4回	版画表現 版画絵本製作（1） ・版画表現について学ぶ ・スチレンボード版画と木版画を用い、一冊の絵本を製作	・間接技法の理解 ・構成力	予習：様々な版画の作品を見る 復習：本題材を振り返り、授業で学んだ内容をドキュメンテーションブックにまとめる
5回	版画表現 版画絵本製作（2） ・スチレンボード版画と木版画の製作	・版画で表現する力 ・構成力	予習：子どもの版画の作品を見る 復習：本題材を振り返り、授業で学んだ内容をドキュメンテーションブックにまとめる
6回	版画表現 版画絵本製作（3） ・スチレンボード版画と木版画の製作	・色、線、形等に興味を持ち、その美しさの理解	予習：なし 復習：本題材を振り返り、授業で学んだ内容をドキュメンテーションブックにまとめる
7回	版画表現 版画絵本製作（4） ・スチレンボード版画と木版画の製作 ・刷りあがった作品の製本	・構成力 ・本の構造についての理解	予習：なし 復習：本題材を振り返り、授業で学んだ内容をドキュメンテーションブックにまとめる
8回	版画表現 版画絵本製作（5） ・版画絵本の発表と鑑賞を行う	・作品を鑑賞する力 ・他者の作品から学ぶ力 ・批評力	予習：発表と鑑賞の準備 復習：本題材を振り返り、授業で学んだ内容をドキュメンテーションブックにまとめる
9回	鑑賞 ・学内の美術作品を鑑賞し、鑑賞教育について理解する	・美術作品理解 ・鑑賞教育についての理解	予習：なし 復習：本題材を振り返り、授業で学んだ内容をドキュメンテーションブックにまとめる
10回	粘土造形（1） ・モチーフの観察をもとに粘土造形のイメージを広げる	・粘土の基本的な使い方の理解	予習：なし 復習：本題材を振り返り、授業で学んだ内容をドキュメンテーションブックにまとめる
11回	粘土造形（2） ・材料からの発想と、様々な道具や手法の活用を合わせ、粘土造形を行う	・イメージを立体で表す力	予習：なし 復習：本題材を振り返り、授業で学んだ内容をドキュメンテーションブックにまとめる
12回	粘土造形（3） ・材料からの発想と、様々な道具や手法の活用を合わせ、粘土造形を行う	・粘土の特性の理解 ・粘土造形に必要な道具を使える力	予習：なし 復習：本題材を振り返り、授業で学んだ内容をドキュメンテーションブックにまとめる
13回	粘土造形（4） ・材料からの発想と、様々な道具や手法の活用を合わせ、粘土造形を行う	・粘土の特性の理解 ・粘土造形に必要な道具を使える力	予習：なし 復習：本題材を振り返り、授業で学んだ内容をドキュメンテーションブックにまとめる
14回	粘土造形（5） ・粘土造形の発表と鑑賞を行う	・自分の作品を口頭で発表する力 ・批評力から他者の作品から学ぶ力	予習：発表と鑑賞の準備 復習：本題材を振り返り、授業で学んだ内容をドキュメンテーションブックにまとめる
15回	まとめ 15回のまとめ	図画工作の学修内容を振り返る力	予習：なし 復習：授業を振り返り、授業で学んだ内容をドキュメンテーションブックにまとめる
試験	ドキュメンテーションブックの提出 秋学期に行った全ての題材についてまとめたドキュメンテーションブックを、指定された日時、場所に提出すること		

授 業 科 目 名	カウンセリング論						
サブタイトル	カウンセリングとの出会い						
授 業 区 分	専門教育科目	単 位 数	2 単 位	開講時期	秋学期	出席要件	2/3以上
担 当 教 員	鈴木由美					授業形態	講義
質問受付の方法	研究室（3A14）に掲示						
到達目標と学習の成果	到達目標 (1) 目的 カウンセリングを理解する。代表的なカウンセリング理論の各定義を明らかにし、その理論の特質を学ぶことを目的とする。 (2) 授業構成と到達目標 ①カウンセリングの必要性について理解することができる。 ②カウンセリングの8つの理論の人間観・性格論・問題発生・援助目標について理解することができる。 ③カウンセリングの8つの理論の活用、限界、役割について、自分なりの考えをまとめるができ、折衷主義について理解ができる。						
	学習成果 (1) 現在なぜカウンセリングが必要になっているのかを明確に述べるができる。 (2) 代表的な8つの理論の作られた時代や創始者を理解し、各理論の人間観や性格のとらえ方、悩みに対する考え方、援助する際の方法の比較を述べるができる。 (3) カウンセリングの8つの理論について、長所と短所を理解し、実践や活用についての方向性を見出すことができる。 (4) カウンセリングを自分の悩みに関連づけて考え、問題を解決できる力を身につけることができる。						
ディプロマポリシーとの関連	① 多様な価値観を受け入れられる人間性を持ち、多面的に捉えて問題解決ができる。 ② 教育学、心理学、福祉学、保健学、社会学などを基盤とする児童学を学び社会人となり、社会に貢献できる。 ③ 本科目は、児童心理コースのカリキュラムマップの「心のメカニズムを学ぶ/2年生心のはたらきを探ろう」に位置づけられており、15回の授業によりカウンセリング理論を習得することができる。						
授 業 の 方 法	1. 「カウンセリング理論」の教科書からカウンセリングの8つの理論を理解するとともに、事例や面接場面のビデオ映像をとおして、実践的に学びます。 2. 各理論についてシート（一覧表）を作成して、わかりやすい比較表を作成します。このノートは8回の授業で提出を求めます。 3. 芸術療法でコラージュを実施し、作成した作品についてグループ討論を行い発表し学びあい、体験シートを記入し提出します。 4. 提出した理論シートや体験シートは、次回の授業にコメントを入れてフィードバックします。						
テキストと参考図書	教科書 カウンセリングの理論 國分康孝 誠信書房 1980 教科書を使い授業を行いますので、必ず購入ください 参考書 ピアヘルパー ハンドブック 日本教育カウンセラー協会 2001 ピアヘルパーを受験する学生は必ず購入してください。						
評 価 の 要 点	1. カウンセリングの定義や歴史的背景について、理解して説明ができる 2. 対人関係ゲームや構成的グループエンカウンターについて、説明ができる。 3. 芸術療法について、方法を説明できる。 4. 8つの理論について、各理論の特徴や方法について、違いを比較しながら説明ができる。						
評 価 方 法 と 採 点 基 準	評価の要点に基づいて実施する期末試験（70%） 体験シート、理論のシート（15%）ディスカッションでの発言等（15%）にて評価します。						
履修上の注意事項の助言など	ノート・体験シート・理論シートは提出期限を守ってください。 「カウンセリング理論」の教科書で予習・復習をすること。						

授業回数別教育内容		身につく資質・能力	予習・復習等
1回	カウンセリングの定義と必要性を学ぶ カウンセリングの目的や内容を整理し、定義を把握する	カウンセリングの 基本と現状が理解できる。	予習 30分（テキスト）
2回	カウンセリングの歴史や背景を学ぶ カウンセリングの歴史を学び、その時代背景を理解する。	カウンセリングの 時代背景を把握できる。	予習30分（テキストに付箋） 復習30分（ノートまとめ）
3回	カウンセリングの方法を理解し、ビデオにて面接を観る カウンセリングのやり方について理解し、実際のビデオで学ぶ。	カウンセリングの やり方が理解できる。	予習30分（テキストに付箋） 復習30分（面接シートの記入）
4回	グループカウンセリング（対人関係ゲーム）を学ぶ グループカウンセリングを理解し、演習（対人関係ゲーム）にて実際に体験する。	対人関係ゲームの やり方を理解できる。	予習30分（テキストに付箋） 復習30分（体験シート記入）
5回	グループカウンセリング（構成的グループ・エンカウンター）を学ぶ 構成的グループ・エンカウンターの方法を学び、実際に体験をする。	構成的グループ・ エンカウンターが 理解できる。	予習30分（テキストに付箋） 復習30分（体験シートに記入）
6回	精神分析理論を理解する 精神分析での人間観。性格論・問題発生・援助目標・ カウンセラーの役割・クライエントの役割・限界を学ぶ	精神分析を理解 できるようになる。	予習30分（テキストに付箋） 復習30分（理論シートの記入）
7回	自己理論（来談者中心療法） 自己理論（来談者中心療法）での人間観・性格論 問題発生・援助目標・カウンセラーの役割・ クライエントの役割・限界を学ぶ	自己理論（来談者中心療法） を理解できるようになる。	予習30分（テキストに付箋） 復習30分（理論シートの記入）
8回	行動理論 行動療法での人間観。性格論・問題発生・援助目標 カウンセラーの役割・クライエントの役割・限界を学ぶ	行動療法を 理解できるようになる。	予習30分（テキストに付箋） 復習30分（理論シートの記入）
9回	実存主義理論 実存主義理論での人間観・性格論・問題発生・援助目標 カウンセラーの役割・クライエントの役割・限界を学ぶ	実存主義を理解 できるようになる。	予習30分（テキストに付箋） 復習30分（理論シートの記入）
10回	論理療法 神分析での人間観・性格論・問題発生・援助目標 カウンセラーの役割・クライエントの役割・限界を学ぶ	行動療法を理解 できるようになる。	予習30分（テキストに付箋） 復習30分（理論シートの記入）
11回	ゲシュタルト療法 ゲシュタルト療法での人間観・性格論・問題発生・援助目標 カウンセラーの役割・クライエントの役割・限界を学ぶ	ゲシュタルト療法を 理解できるようになる。	予習30分（テキストに付箋） 復習30分（理論シートの記入）
12回	交流分析 交流分析の人間観。性格論・問題発生・援助目標 カウンセラーの役割・クライエントの役割・限界を学ぶ	交流分析理論 を理解できるようになる。	予習30分（テキストに付箋） 復習30分（理論シートの記入）
13回	内観療法・森田療法 内観療法・森田療法での人間観。性格論・問題発生 援助目標・カウンセラーの役割・クライエントの役割 限界を学ぶ	内観療法・森田療法 の理論を理解できる ようになる。	予習30分（テキストに付箋） 復習30分（理論シートの記入）
14回	芸術療法（コラージュ療法） 芸術療法の理論を学ぶ。実際にコラージュ療法を 体験する。作品を通してディスカッションを行う。	芸術療法を理解 できるようになる。	予習30分（テキストに付箋） 復習30分（体験シートに記入）
15回	カウンセリングのまとめ 授業を振り返り、8つの理論について シートを使って、ポイントをまとめる。	カウンセリングの 理論について理解 できるようになる。	復習90分
試験	評価の要点に基づいて実施します。 8つの理論について、10問ずつ問題を出します。教科書と理論のシートを熟読すること。		